



唐津街道姪浜まちづくり協議会の 景観形成活動

主催者：唐津街道姪浜まちづくり協議会

概要：古い町家や寺社等が残る唐津街道沿いの旧姪浜宿周辺のまちづくり資源（魅力資源）を調査し、地域内外にその魅力を発信するとともに、これを地域共有の財産として活用することにより、地域の活性化と地域固有の町並み・まちづくりを推進している。

唐津街道は豊臣秀吉が文禄元年（1592年）に名護屋城出陣に際して利用し、江戸時代には福岡藩が参勤交代や長崎警備に使った。奈良・平安時代の律令官道との関連も指摘され、歴史ある重要な街道であった。本活動はその宿場の一つである姪浜の歴史文化資源を活用して景観まちづくりを進めるものである。協議会発足から2年余りの間に、歴史文化資源の調査、学習、発信、イベント、他地域との交流等をあわせて25件以上を実施した。今後はまちづくり構想策定や町家再生など、具体的な方向に進みつつある。事務局は協議会自らが担い、地域住民の主体性が明瞭である。このように本活動は地域主体の着実な歴史景観まちづくりとして高く評価される。

（審査委員 山下 三平）



JR九州の車両デザイン活動

主催者：九州旅客鉄道株式会社

概要：車両は多くの人々が利用する公共設備であるので、JR九州では利用者に楽しんでもらえるよう、楽しく魅力的なデザインを行っている。各々の車両コンセプトに基づき、機能的で良質であり、環境にも優しい調和のとれた総合的デザインを追求している。

鉄道や公共施設など、公共性の強いものには、機能性に優れ、効率的で、だれにでも好まれる当たり障りのないデザインが施されるのが常だ。JR九州の列車デザインは、こうした“常識”をポジティブに覆した。大胆な造形や色彩、従来にないコンセプトの車両は、明確なアイデンティティを表現し、その姿は地域の顔となった。JR九州の列車デザインの魅力は、鉄道ファンやデザインの専門家に限らず、全国的に広く認められ、独自の地位を築いた。こうしたJR九州の取り組みは、787系「つばめ」が投入された平成4年から続いている。長期的な視点に立った継続的な活動により、プロダクトやサービスのデザインにとどまらず、いま福岡の景観デザインとして定着した。

（審査委員 池田 美奈子）

